

令和5年度 学校だより 10月号 9月29日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 前島 潤

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子

「まち」とともに歩む ～「まち」への感謝～

学校長 前島 潤

「いつまで残暑が続くのか・・・。」と心配する日々がやっと終わり、待ちかねた秋の到来にほっとしています。

秋と言えば、虫好きの私の頭には、アキアカネが浮かんできます。名前に「アキ」がついているとおり、秋になるとよく見るトンボです。暑さが苦手な夏の間は標高の高い土地で過ごし、秋、涼しくなると平地に降りてきて、田んぼなどに産卵します。以前は、あちこちでたくさん見られた赤トンボですが、産卵場所の減少など、環境の変化が主な原因となり、その数は全国的に減っています。山元小では、裏庭のトンボ池で、産卵します。今年の初見は9月25日。数匹のアキアカネをトンボ池で見ることができました。



山元農園が開かれてからおよそ30年。300坪もある農地が学校の敷地内にある恵まれた環境をもつ小学校は、日本全国にそれほど無いのではないのでしょうか。これまで、たくさん子どもたちが農園で野菜を栽培する体験をし、卒業していきました。現在も、在校生がおいしい野菜を栽培しようとしています。

これまでの長い年月を通して、さすがに農園の土は減り、固くなり、野菜の栽培のために土壌改良が必要となりました。教育委員会から支給された黒土を畑に加え、さらに籾殻や牛糞を混ぜ込む。単純な作業なのですが、大きな問題は大量となる黒土の運搬です。農園は急斜面を登った先にあり、高低差が運搬の障壁となります。

いろいろ解決策を考えた結果、人海戦術で地道に運ぶしかないということになりました。しかし、厳しい残暑の中での作業。子どもたち、職員の健康が心配です。そのような状況の中、私たちを助けてくださったのは、保護者・地域の皆様でした。

まず、満田静幸園の満田様です。運動場に置かれることになる黒土をプール横まで移動させる方法として、ラフタークレーン（重機）を使うことを提案してくださいました。そして、業者の方との窓口となり、黒土を移動させる当日も、陣頭指揮に当たってくださいました。これにより、当初考えていた労力が半分になりました。

次に、土運びボランティアとしてお手伝いいただいた皆様です。連日、予想を上回る数の方々がボランティアとして来校し、子どもたちと共に作業してくださいました。保護者だけでなく地域の方も駆けつけてくださいました。

地域の小関様が開墾して始まった山元農園。畑として野菜の栽培を行うために、多くの苦労があったと伝え聞いています。新たに土を入れるのは、それ以来ということで、全く未知の作業でした。実際にやってみると、思った以上の困難が伴い、学校だけでは秋冬野菜の植え付けに間に合う期間ではできなかったと思います。

改めて、保護者・地域の皆様の学校、そして子どもたちを思うお気持ち、お力添えのありがたさを感じました。これからも山元小学校は「まち」の学校として、「まち」とともに歩んでいきます。どうぞ、よろしくお願い致します。



ラフタークレーンで黒土をプール横へ



黒土をスコップでバケツへ



バケツリレーで農園の畑へ